

生活実態に関するアンケート調査結果公表!

市教育委員会では、令和4年9月、市立小学校6年生、中・高等・中等教育学校1年生の児童生徒23,398人を対象に、生活実態に関するアンケート調査を実施しました。調査目的は、小・中・高等・中等教育学校におけるヤングケアラーと思われる児童生徒数や実態を把握し、その後のケアや支援につなげていくことです。調査は、主に1人1台端末を活用し、WEB上で実施しました。調査結果については、11月28日(月)の教育長定例記者会見において発表しました。調査の詳細は、市WEBサイトに掲載してあります。

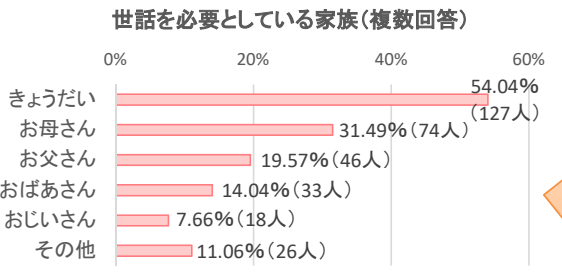
	有効回答数	有効回答率
全体	20,565	87.9%
市立小学校	10,368	89.0%
市立中・中等教育学校	9,495	88.1%
市立高等学校	702	71.9%

〇お世話をしている家族が「いる」と回答

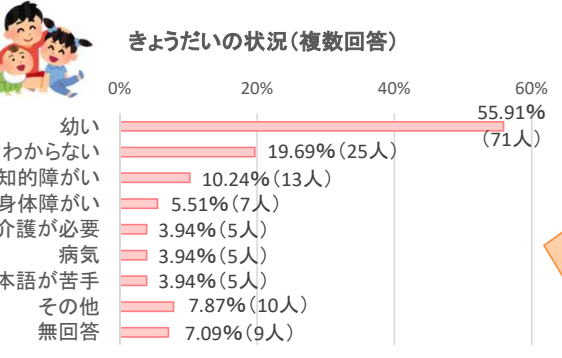
- 市立小学校6年生 … 2.27%(235人)
- 市立中・中等教育学校1年生 … 2.79%(265人)
- 市立高等学校1年生 … 1.14%(8人)



〇世話を必要としている家族について ※市立小学校6年生



小学校6年生において、世話を必要としている家族については、「きょうだい」と回答した児童が最も多く、54.04%で127人でした。続いて、「お母さん」が31.49%で74人、「お父さん」が19.57%で46人、「おばあさん」が14.04%で33人、「おじいさん」が7.66%で18人でした。



特に多かった「若い」に関して、「お世話を必要としている家族の状況」を見ていくと、「若い」が「若い」からお世話をしている」と回答した児童が一番多く、55.91%で71人でした。続いて、「わからない」という回答も多くありましたが、「知的障がい」と回答した児童は、10.24%で13人、「身体障がい」と回答した生徒は、5.51%で7人でした。

〇学校等の相談支援体制について

- 〇 小・中・高等・中等教育学校において、お世話をしていると回答した児童生徒に対して面談を実施し、校内において学習面のサポートや心のケア等具体的な支援を行っていきます。また、福祉的な支援が必要な場合には、スクールソーシャルワーカーを通じて、関係機関と連携し、当該児童生徒の支援を行っていきます。
- 〇 24時間子どもSOS相談窓口及び、さいたま市SNSを活用した相談窓口において、ヤングケアラーに関する相談も受け付けています。

市立中学生によるビジネス提案発表会 「さいたまカップ」を開催します

市教育委員会は、中学生が企業にイノベーション企画を提案する探究学習プログラム「さいたまエンジン」を実施しております。「さいたまカップ」は、予選である校内プレゼンテーション大会で企業賞を受賞したチームがグランプリを目指して、ファイナルプレゼンテーションを行うものです。今年度は、先行実施校の岸中学校・浦和中学校・大宮国際中等教育学校の3校から13チームが参加し、本市の新たな可能性を提案します。

- 日時: 令和4年12月17日(土) 9:00~12:15
- 会場: さいたま市立大宮国際中等教育学校
- 内容: オープニングセレモニー、全13チームによるプレゼンテーション、表彰・指導講評・参加企業への概要説明と質疑応答、交流会

やっぱり先生になりたい! ~「教員Restart研修」を実施します

教員免許状を取得していても教壇に立った経験がない、または教職から離れて久しい、いわゆるペーパーティーチャーを対象に、「さいたま市 教員Restart研修」を実施します。

- 日時: 令和4年12月17日(土)・18日(日) 13:00~16:00 (受付12:30~)
- 会場: さいたま市立教育研究所
- 内容: 授業づくり、心に残る学級開き、ICT教育、特別支援教育、生徒指導、教員の一泊(詳細は、さいたま市ホームページで確認してください。)

教員になることを不安に感じている方が、自信をもって安心して教職の道に進んでいけるようさいたま市が全力でサポートします!

教育長室の窓から

サッカーワールドカップ・カタール大会2022での日本代表チームの活躍は、国内外を問わず、世界中の人々が感動を覚えることとなりました。テレビの試合映像や解説、新聞・インターネットの記事を通じて、選手の優れた技能、監督のデータに基づく高い思考力や的確な判断力、組織としての協働や機動力、エピソードから知った個々の豊かな人間性、献身的なサポーターの主体性、結果として新たな価値を生み出した創造力等、国際社会で生きる力について様々に考えさせられます。これらの力や姿勢・態度をばくくんだバックヤードを想像すると、本市の「PLAN THE NEXT 3つのGで日本一の教育都市へ」に掲げるGrit・Global・Growthの「3つのG」との共通性を強く感じます。

市教育委員会は、今後も絶えず「世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人」の具現化というゴールを目指して、本市ならではの特色を活かした魅力ある教育をさらに展開できるよう取り組んでまいります。

編集後記

教育委員会だより第30号はいかがでしたでしょうか。今後も、定期的に各課所室から、教育委員会の今を伝える情報を発信してまいります。
【第30号編集担当】 管理部教育政策室 048-829-1626